

「稲子湯から硫黄岳」2題

(報告) Sasa

◎山行期日：2018年1月13日(土)～14日(日)

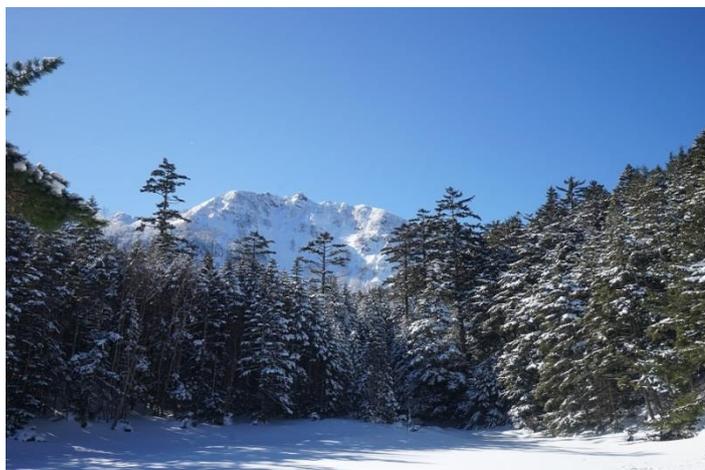
◎パーティー：Yaza (L)、Kane、Sasa、Ujin

「冬に八ヶ岳でも行こうか？」昨年の夏に食事をしながらお酒を飲んでいる時でした。YazaさんとKaneさんが名古屋に用事があり、会社の後輩のNii君と4人で食事をしたのです。山談義に花が咲き、目的地は八ヶ岳の山、日程は1月13～14日という事が決まりました。12月頃から連絡を取り、Yazaさんから3つのコースを提示頂き、稲子湯から山に入り、本沢温泉でテント泊し、翌日硫黄岳に登頂するコースになりました。今年の冬は寒波が多数来ていますが、山行予定日の前後も寒波が来るとの事で、寒くなる予報でした。

当日は名古屋から高速道路を走り八ヶ岳を目指しました。途中、駒ヶ根あたりを走っていると右手に南アルプスの山々が見えて、とても良い天気でした。岡谷ジャンクションを過ぎると右手には荒々しい甲斐駒ヶ岳が見えます。左手を見ると権現岳や赤岳が見え、山頂部には雲がかかっていますが、天気は良いです。

美し森駐車場で、Yazaさん、Kaneさんと合流し、Yazaさんの車で稲子湯へ向かいます。稲子湯に到着後、身支度を整えて、雪山装備とテント泊装備を入れ、更に食糧やお酒を入れたザックを背負い出発します。

歩き始めますが、雪山のテント泊は久しぶりで荷物が重く感じられ、中々ペースが上がりません。沢沿いの平坦な道を歩き、橋を何度か渡り、勾配の急な登りに入ります。ここからがしらびそ小屋への本格的な山道で、息が上がり、なかなかキツイです。この登りを1時間くらい登りしらびそ小屋へ着きました。しらびそ小屋の隣にあるミドリ池は凍っており、凍った池の上を歩く事ができます。またミドリ池からは迫力の



(ミドリ池から東天狗岳を望む)

ある稲子岳の壁面、雪煙を上げる東天狗岳が見えます。この景色を見て、厳冬の山に入っているんだな、という実感が湧いてきました。一息入れた後、本沢温泉を目指して歩き始めます。

しらびそ小屋から本沢温泉まではとても長く感じました。重い荷物が徐々に体力を奪っていくのも要因の1つですが、標高差があまり無いため、なだらかなコースで、歩行時間が長いです。重い荷物に耐えながらへトへトになりながら歩き、何とか本沢温泉に着きました。本沢温泉に到着後は、テントを張る場所を決め、整地し、テントを張ります。テント設営後、14時と時間は早かったですが、お楽しみの宴会が始まりました。各々持って来たお酒を飲み、厚切り肉を焼いて食べたり、鍋を作って食べたりと至福のひと時です。やっぱり山で食べるご飯は最高です。

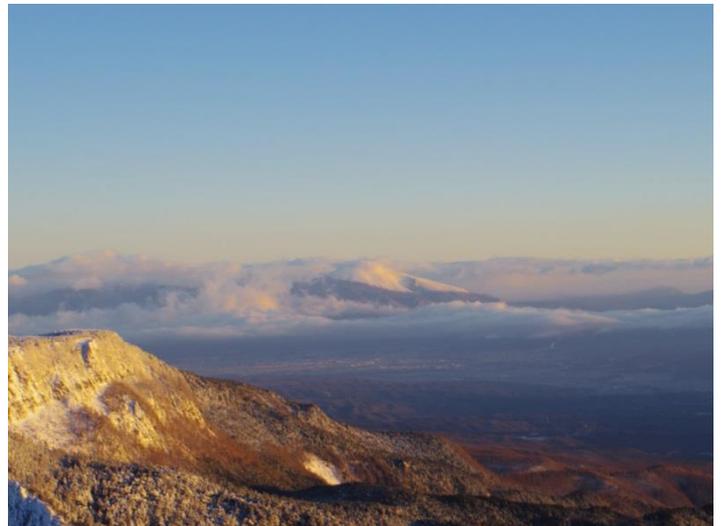
宴会開始から2時間くらい経過し、そろそろ宴もたけなわ。夕食の後片付けをし、明日の山頂アタックの準備、と言いたいところですが、自分としては本沢温泉に入りたいと思っていました。「今から温泉に入りに行こうかな」と言うと、Yazaさんに正気か！？と驚かれましたが、「ワシも様子を見に行こうかな」という事で一緒に来てくれる事になりました。厳冬期の露天風呂に入るの事に満更でもない様子です。

<日本の秘湯本沢温泉 日本最高所野天風呂 2150m>→



ちなみに後輩のNii君は寝不足気味なのでテントで寝るとの事、Kaneさんには丁重に断られました(露天風呂は1つしか無く、混浴でしたので・・・)。テン場から5分登り、まずは小屋で温泉の受付。小屋の前には日本最高所の野営風呂の看板がありました。小屋から更に5分登り、硫黄岳への登山道と露天風呂の分岐を露天風呂方面に行くと、雪が積もったトラバース道を下ります(酔っ払いには少々危険なトラバース道です)。数10メートル下ると露天風呂がありました。記念撮影後、ここまで来たらYazaさんも入る(実は最初から入る気だったのではないかと思います)との事で服を脱いで温泉にドボン。硫黄の匂いが漂う源泉かけ流しの温泉は最高です。しかも2人で独占。上を見上げると硫黄岳の爆裂火口壁が暗闇の中に見えます。

(赤く染まる稲子岳と遠くに浅間山)→



湯加減もよい感じですよ。お風呂の中も記念撮影をして、10分程度温泉を楽しみました。ずっと入っていたい気分でしたが、Kaneさんが心配するし、そろそろ出ようかということになりました。しかし、厳冬期の日本最高所の野営風呂はここからが鬼門です。お湯の温度は推定+40℃、外気温は推定-15℃。気温差55℃の苦行が待ち受けています。

しかし、人生の先輩(Yazaさん)は一枚上手でした。お風呂の脇に着替えとタオルを予め置いていたのです。上半身から拭いて服を着始めています。私はお風呂から少し遠い位置に服を置いてしまいました。

気温差55℃の試練を受けなければなりません。意を決してお風呂を出て、-15℃の中、温泉で濡れた体をすぐに拭いて、服を着て、更にアウターウェアを死に物狂いで着ました。人生でダントツの一番と言えるほど、服を着るスピードは速かったと思います。ただ、外気温は低いですが、服を着ると体の中からポカポカしてきて、温泉の効用を感じられました。厳冬期の本沢温泉に入るだけでもとても良い思い出ができ、ここまで重い荷物を背負って歩いてきた甲斐がありました。

帰りは小屋に寄り、ウィスキーを買って、テントでウィスキーを飲んでから寝ました。

翌日は2時半過ぎに起床。朝食のうどんを食べ、お湯を作り、身支度を整えて、5時過ぎにテン場を出発。まずは夏沢峠を目指し、ひたすら暗闇の樹林帯を登ります。1時間くらい登り、辺りが明るくなってきました。後ろを振り返ると稲子岳のモルゲンロートが見られました。

更に遠くには浅間山が赤く染まっています。更に登り夏沢峠に着きます。稜線に出たため少し風が出てきます。ここから更に標高を上げ、森林限界を超えると風が一段と強くなります。

岩が所々露出している箇所はアイゼンを引っかけないように気を使いながら登ります。峰の松目と硫黄岳の分岐に到着する頃には、時々耐風姿勢を取らないと飛ばされそうになるくらいの風が吹いてきます。上を見上げると雪煙を上げる硫黄岳。ここより上はゴーグルを付けたかったです、ザックを下ろして装着する余裕もありません。みんな言葉無く必死に登ります。大きなケルンを2つ超えると広い山頂部に出了ました。



(硫黄岳山頂より横岳、赤岳、阿弥陀岳。とても風が強かった)

皆と握手をしましたが、記念撮影する余裕は全くありません。氷化した雪を巻き込みながら強風が全身に襲いかかります。山頂部に5分でも停滞していると体温を奪われて動けなくなりそうです。デジカメも低温のため動作せず、スマホで少し写真を撮って、すぐに下山しました。下山は慎重に足を置きながら、夏沢峠まで一気に下りました。ここまで下りれば一安心。暖かいものを食べ、本沢温泉へ下山、テントを回収しました。本沢温泉からは重い荷物を背負いしらびそ小屋を経由し、稲子湯へ下山しました。

下山後、八峰（ヤッホー）の湯へ寄りました。ここは名前の通り八ヶ岳連峰を東側から一望でき、ヤッホーと叫びたくなるようなロケーションです。温泉に入りながら八ヶ岳連峰を眺めると、約6時間前には硫黄岳の頂上にいたんだなとしみじみ思いました。

今回は山頂の厳しい風も思い出の一つですが、やはり日本最高所の野営風呂に厳冬期に入れたことが一番の思い出です。想像していたより遥かに厳しい環境の温泉でしたが、普段の生活では中々味わうことのできない露天風呂でした。泉質はとても良いのでまた入りに来たいと思います。ただ、次に入りに来る機会があるとすると、もっと暖かい時期にしたいと思います。

「日本最高所の露天風呂 硫黄岳顛末記」

(報告) Yaza

冬山で荷物が多いのにも関わらず、4人用のテントに4人が入り、八ヶ岳の厳冬期のテント泊は思ったよりも暖かく過ごせた。もっとも、夕食を作るため、雪から水にするためにコンロをバンバン使って

いたし、夕食自体がなべ物だったこともありホントに暖かかった。お酒とすき焼き風のなべ物の宴が終わり、一息ついた時、Sasa くんが「せっかく本沢温泉に来たんだから日本最高所の露天風呂に入る。」と言いだした。『えーっ、これから？』、Nii くんは既に眠ってしまったので、Kane さんと私は大人の分別で間違いなくそう思ったのだ。この厳冬の中、既に外は暗く今から外に出ようなど、長く雪山でテントを張って来た人間には考えられないことだった。しかし Sasa くん、結構落ち着いていつものように淡々と言う。そして次には自分も思いがけないことばを発していた。「そうだね。おれは入らんけど写真撮るために一緒に行くよ。」

実は私はこの山に入る二日前に、湯たんぽで左足に火傷を負っていた。いわゆる低温やけどというやつだ。デイサービスと一緒に働く看護師からは Yaza さんはお年寄りと一緒に、いやここに来ているお年寄りよりもじいちゃんだ。」などと言われた。患部をガーゼで保護して山に入ったという訳である。ここまで痛みはなく順調だと思っていた。

薄暗くなりつつある中、タオルを持って冬用ジャケットを着て登山靴を履きテントの外に出た。アルコールの所為か、寒さをそれほど感じなかった。Kane さんも誘ったけれど当然のように拒否された。二人でトボトボと上に向かった。本沢温泉で受付を済ませてさらに雪道を進んだ。しばらく上った後は、標識に沿って下って行った。雪の中に幅 15cm 程の板、数枚で覆われた 1m×2m ほどの露天風呂があった。氷点下 10 度以下、板を何枚か外し、登山靴を脱ぎ、ジャケットを脱ぎ、衣類を脱いで風呂に入った。火傷だから止めておくという気持ちは既になく、自分も入った。硫黄岳の爆裂火口がぼんやりと見えていた。温泉の湯温は丁度良く気持ち良かった。しかし当たり前のことだが外気温は冷たく、頭の帽子は取らずに湯に入っていた。ちなみに、この湯はペーハー 3 とかでかなり酸性度が強いということだった。だから火傷の傷にも消毒効果があると思っていた。

湯温は丁度いい。外気は厳しい。出るのには勇気が必要だった。まず、上半身を出してタオルで身体を拭き、とりあえずシャツを着る。その後に全身を外まで出して、下半身を拭き、素早く、パンツ、ズボンを履いた。そしてジャケットを来て靴を履き一安心、再び雪道を踏んでテントに戻った。

温泉効果なのか、4人で泊まったのが良かったのか暖かいテント泊となった。

山から下りて普通の温泉に入ったが、火傷の傷は乾いた感じだった。さすが酸性度の強い温泉ですっかり良くなった、獣でも温泉で傷を治すと聞く、と思ったのもつかの間、炎症を起こした。菌が足の中に潜り込み、点滴を4日間受け、今も皮膚科に通っている次第。それでも Sasa くんに入ったあの露天風呂は忘れられない光景となった。

<記録>

1月13日(土) 9:10 稲子湯—11:20 しらびそ小屋 13:20 本沢温泉

1月14日(日) 5:20 本沢温泉—6:40 夏沢峠—8:20 硫黄岳—9:10 夏沢峠—10:20 本沢温泉—13:00 しらびそ小屋—14:10 稲子湯